

- 参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。
 - ・ 発言者については氏名を記載せず、委員については委員と、NUMO 職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと、テーブルファシリテーターについてはテーブルファシリテーターと記載しています。
 - ・ 個人名の特定につながり得る発言等、文書として公開するにあたって配慮が必要な部分については、一部加工しています（「〇〇」と記載）。ただし、NUMO 職員、ファシリテーター、テーブルファシリテーターの氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
 - ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。
- 本会議録は「対話の場」の様態を配信した映像の音声に基づき作成しておりますが、当日の通信トラブルにより配信が一部中断した箇所がございます。その箇所については、「配信中断のため音声なし」と記載しています。

神恵内村 対話の場（第4回）会議録

1. 日 時：2021年10月15日（金）午後6時30分から午後8時35分
2. 場 所：神恵内村漁村センター
3. 会議録：

（1）開会

○NUMO

それでは、お時間になりましたので始めさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、神恵内村対話の場にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。私は対話の場の事務局 NUMO 神恵内交流センターの小野寺と申します。よろしくお願いたします。

それでは、ここからはファシリテーターの大浦様、佐野様にお渡したいと思ひます。よろしくお願いたします。

○ファシリテーター

皆さん、こんばんは。今日も進行を担当させていただきますファシリテーターの大浦です。どうかよろしくお願いたします。それと一緒に今日進めてくださいます、

○ファシリテーター

佐野です。よろしくお願いたします。

○ファシリテーター

よろしくお願いします。今日またこの二人に、各テーブルにテーブルファシリテーターですとか、あるいは記録の係ですとか、いろいろな方にお手伝いしていただきながら、皆さん方と一緒に対話の場を進めていきたいなと思っております。

それでは、今日の対話の場を進めるにあたって、対話の場と進め方についてちょっと確認をしながら進めていきたいと思っております。

今日も参加いただいてありがとうございます。本日のメンバーですけれども、ファシリテーター、僕と佐野さん、ほかにファシリテーターで入ってくれてる人。この人たちが今日のテーブルで、この後やる皆さん方の質疑応答だとかのお世話をさせていただく係です。どうかよろしくお願いします。今これで1人1人自己紹介すると時間かかるのでやめときますね。あと、テーブルに入っている NUMO の方。今の方々がテーブルに入っていて、NUMO のスタッフとして皆さん方の質問に真にお答えいただくと。分かりやすくお答えいただく、というミッションが入っていますので、そういうことをやったださる方だと思っております。あと、テーブルにいる人で、スタッフ側でないよね。俺は呼ばれてないとかっていないよね。あと、役場の方がお一人テーブルで記録係としてお手伝いしていただいております。よろしくお願いします。お手数おかけします。慣れない仕事よろしくお願いします。ほかにも NUMO の方とか、エネ庁の方、やはり記録係でお手伝いいただいております。よろしくお願いします。あとは、こちらの事務局にいるのが NUMO の方がお二人、役場の方お二人、経産省の方がお二人、道庁の方がお一人ということで来ております。一人一人本来はご紹介すべきですが、今ちょっとやめておきますね。ということで、このようなメンバーでまいります。どうかよろしくお願いします。

今日の流れですけれども、最初にいつもファシリテーターの立ち位置の確認をしてから、対話の場の前回の振り返りをして、今日の問いかけにいくという流れになっております。

すいません、毎回同じ話をして耳タコかもしれません。ただ、私たち自身のためにも、もう一度確認します。僕はこの NPO 法人「市民と科学技術の仲介者たち」って長いだろうって最近いっぱい文句言われるんですけども、この会に所属しています。私たちのモットーとしては、科学技術に関する啓蒙活動と、大事なこと、科学技術について正しく恐れるという活動の両方を行っています。仲介者、皆さん方の仲介者として入っているということで仲介者の役割を果たします。それと、とても大事なことで、あらかじめ答えが決まっている場には関わりません、ということです。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、先日、岩内町のシンポジウムでちょっと手伝ってくれというお話があって、ちょっとお手伝いをしたんですが、その時にも役場の方にこのお話はしました。僕たちはルールがあって、役場の方が最初から、こういう答えにしてほしいとか、こういう話にしてほしい、というご意向があるのならば、ちょっと僕にはご希望に添えませんという話をしました。これが僕たちの基本的なスタンスです。何らかの答えを誘導するようなこともしないということが僕たちのルールです。これはテーブルに入っているファシリテーターも同じルールで動いております。

そもそもこの場にいる理由はなんなのかという、僕たちは対話の場に参加して下さっている皆さんのためにいます。それともう一つ大事なこと。神恵内村に心を寄せてくださっている方

がたくさんいらっしゃいます。皆様のご家族、あるいは今日リアルタイムで中継が入っていても、中継のカメラの向こうで、ウェブで今見てくださっている方々も神恵内のことを心配してくださってる皆さん。そういう方々のことも忘れてはいけないと思うんです。それと、次世代の皆さん。100年とか何万年とかという話をするので、これから先の将来世代の方々のことも考えながら、場の運営をさせていただければと考えております。

最後に、対話の場の約束事です。これは今まで、最初の第1回の時でしたね、皆さん方とご相談して決めさせていただいた対話の場の約束事です。皆さん方には、対話をしていただくために集まったので、この場で言い争いだとか分断だとかが起きるといことは、できるだけ避けたい。一時的に気持ちが高じて、言いすぎちゃったかな、なんてことはあるかもしれないですけども、できるだけ分断は避けたいというのは、僕たちの願いです。

約束事として、お互いの意見に耳を傾けましょう。それと、あまり長く一人で場を占拠してしまうようなことは慎みください。それと、人の話を否定するのはやめましょう。どうしても言いたくなりますね。言いたくなりますけども、そうじゃなくて、それはそれとして腹に収めておいて、僕にはこういう違いがある、こういう違う考えがあるということを表明することを大事にしたい。そういう場にさせていただければなと思っています。あと、この場で話したこと、後ろにプレスもあります。後ほど、知り合いの人に「あの日どんな話が出たのよ」と聞かれる方もいらっしゃると思います。何が話されたのかについては、外で話すことについては、基本的に自由です。ただ、誰が何を言ったのか、「誰が」の部分を除いてお話していただきたい、というのがお願いです。

こういうことで、皆さん方で一度ルールを決めました。この場でずっとやってきてること。一度決めたルールはフィックスではない。決まったものじゃなくて、皆さん方が必要があればいつでも変えられるというふうにやってきました。このルール、今この形でこのまま進めてよろしいでしょうか？もうちょっとこうしたほうがいいとか。よろしいですかね。では、この形でいきましょう。特に無ければ、このまま進めます。

(2) 前回の振り返り

○ファシリテーター

前回の振り返りをちょっとしましょう。前回8月5日です。暑かったの覚えてます？すごい暑かったですね。僕Tシャツ1枚になったような気がする。すごい暑かったんですけど、ずいぶん経っちゃいましたね。コロナの関係で時間が経ってしまいました。前回どんなことをやったのかというと、皆さん方が対話の場に対して、どんな話がしてほしいのかとか、どんなことについて話をしたいか、これからどんなことやればいいのか。あるいは、今の気持ちみたいなものについて問いかける、という問いかけをやりました。覚えています？テーブルでやりましたね。皆さん方に書いていただきました。どんなことがあったのか全部紹介していたら終わらないので、「世代別や理解度に合わせた丁寧な説明会をやってほしいです」とか、「神恵内が悪者になっているのが、私たちはちょっと気持ちとしてはとても収めるところがない」みたいな意見がありますね。あとは「神恵内に合った地域振興の情報が必要なのではないのでしょうか」、「知識不足なの

でもっと知りたい」、「活断層に関する勉強が必要ですね」、「もっともっと議論が必要ですね」という話がありました。あとは、「神恵内は山ばかりで、本当に地上施設を造る所があるのか？」という意見もありましたね。あとは「住民の不安、不信がたくさんあるので、これを解消してほしい」、あるいは「原発にすぐに結びつけるのはどうなんだろうね」という意見ですとか、「みんなが一緒に話し合う場というのが必要なんじゃないですか」という意見だとか、「風評被害が出ています」、「天の時 地の利 人の和」という言葉、すごく説明をして下さったんですけど、今説明すると長いので止めておきましょう。あとは何か、どんなのが佐野さん記憶に残ってる？

○ファシリテーター

「村は残るのか？」、「神恵内の名前を残したい」とか、あと「わかんない、質問が難しい、質問できない」、「調査が終わったらゴミを持ってくるんでしょ。そういうふうに思ってる人たくさんいるよ」とか、そんな声もあったかなと思います。

○ファシリテーター

その前に、〇〇さんからいただいているたくさんの質問もあって、ペンディングになっているのもあるので、ちょっとだけ振り返っておくと、例えば、大事なこと。「周囲への影響、放射線の人体に対する影響は本当に大丈夫なの？ 特に次の世代、次の世代に大きな影響を残すんじゃないかと心配」、「活断層の危なさ本当に伝わってるの？」とかいったことについても、ちゃんと議論していく必要があるんじゃないか、というご提案をいただいております。

というようなことを、たくさんの皆さん方のご提案やお気持ちをいただきました、というのが前回まででした。これを受けて、これから先この対話の場をどういうふうに進めていけばいいのかということについて、お忙しい中、運営委員会の皆さん方で、こういうふうやっていったらいいのかということについて話し合いがされたそうです。されたそうですというか、僕もいたんですけどその場でされました。その結果について、事務局からご報告いただければと思います。

(3) 運営委員会からの報告

○NUMO

それでは、運営委員会で今後のテーマについて検討した結果について報告します。テーマの検討にあたって、運営委員会を9月13日と10月4日に2回開催しています。当初、運営委員会でテーマを検討することとしておりましたけれども、13日に開催された運営委員会で、テーマを運営委員3人だけで決めるのではなくて、多く委員の意見を聞いて決めたいということになりました。委員の皆さまにアンケートを取って意向を確認することとしました。

資料1をご覧ください。資料1は、委員の皆さまのご意見をまとめたもので、テーマについて丸が多い順に並び替えています。一番関心が高かったのが、地層処分のリスクと安全対策、続いて、地域振興、風評被害、地質、地下環境について、ということで、関心が高かった順に並べております。この結果を踏まえて10月4日に運営委員会を開催しまして、テーマを検討しております。検討の結果については資料2をご覧ください。ありがとうございます。

○ファシリテーター

ちょっといいですか。ちょっとごめんなさい。今の説明で皆さん方、ご理解いただいたかと思うんですけども、今リアルタイムで見てらっしゃる方が、たぶん何のことか伝わらなかったと思うんですよね。ちょっと補足させてください。

先ほどご紹介したさまざまな意見、さまざまお気持ちを一回エクセルの一覧表でざっと整理をして、いくつかのカテゴリーに分けるという作業やっていたということですね。それぞれのカテゴリーに、例えば、風評被害だとか地域振興だとかタイトルをつけて、どの話について皆さん話をしたいですか、これから議論したいですか、ということについて、今日対話の場に参加して下さっている皆さん方にアンケート調査を取らせていただいた。その結果がどういう結果でしたか、ということについて今ご説明いただいた、という流れです。

○NUMO

そうです。ありがとうございます。それで資料2にいきますけども、資料2が運営委員会を2回開催して、テーマを検討した結果になります。次回第5回につきましては「地層処分のリスクと安全対策」、第6回は「地域振興」、第7回は「シンポジウム、講演会、討論会」といったテーマで開催したいと考えております。ただ、これらのテーマにつきましては、決まったものということではなくて、今後、委員の皆さまや村民の皆さまのご意見を踏まえて変更することもあり得るということをご了承いただければと思います。また、2回目に開催した運営委員会では、今後の対話の場のテーマや内容を検討するにあたっては、村民の関心がどこにあるのか、何が一番村民の皆さんの関心が高いのかということを確認する必要があるんじゃないか、というご意見もいただいております。村民の皆さまのご意見を確認する方法については、NUMOでお知らせに記載していただくとかいろいろありますけども、まだちょっと検討中でありまして、これはまたやり方を検討してまいりますけども、当面のテーマについては、この案で実施させていただければと思っております。事務局からは以上です。

○ファシリテーター

情報発信の話をすればいいのかな？

○NUMO

もし運営委員のほうから補足があれば。

○ファシリテーター

ここまで今報告がありますけども、運営委員の皆さん方、話し合った内容と違うとかってというのはありますか？ないですか？大丈夫ですか？

はい、大丈夫なようです。

今報告がありました、当面の進め方、向こう何回だっけ？

○NUMO

3回、

○ファシリテーター

向こう3回分のプログラムについて、こういうかたちで仮置きで進めていくということで、皆さん方ご承認いただけるでしょうか？ご異議ないでしょうか？

大丈夫そうですね。では、このかたちで進めさせていただきます。よろしく願いいたします。

○NUMO

続いて、運営委員会の結果として資料3に移ります。

○ファシリテーター

資料3、僕から説明しましょう。「情報発信について」という資料が手元にあると思います。対話の場でどんな議論が行われましたか、どんなお話がありましたか、というのは、この付箋はホームページに載ってるんですよね？

○NUMO

はい。

○ファシリテーター

出てきている付箋は、写真を撮ってホームページに載せます。フル公開です。それと、皆さん方の議論については、テキストで一部起こして、対話の場の記録としてNUMOさんが公式で発表しているものが皆さん方の手元に届いていると思います。見ていただけているかな？そういうのを配布していただいている、公式記録が出ています。ただ、そういうのは書いてある文章だけなんです。言葉だけ。事実の記録、淡々と事実の記録だけで、参加して下さっている皆さん方はどんなことを感じてるんだろうか。あるいは、それを見ている人たちはどんなことを感じてるんだろうか。村の人たちはどう思っているんだ、とかみたいなことについて、情報発信する別のチャンネルがあるといいんじゃないかなというふうにもちょっと考えました。それについて、運営委員の皆さん方と相談しながら、そういう情報を発信してもいいんじゃないかというお話を運営委員の皆さん方にいただいて、私が所属するNPOのほうで、この情報を発信させていただきたいと考えております。そこの編集を担当していただくのが、

○ファシリテーター

私が、ここからちょっとまだ名前も決まってないんですけども、ここの地層処分に関する対話の場について、何か通信を出せたらいいなと思っています。通信というと、なんかNUMOからの一方的な情報になるんじゃないか、と思われる方もいらっしゃると思うんですけど、やりたいこととしては、皆さんがどんなことを感じてらっしゃるかということを通して伝えていきたいな

と思いますし、皆さんが感じていることは、ここにいらっしゃらない村民の方も同じように思っている可能性が高いなと思っているので、皆さんのいろんなお気持ちとか考えを通信で出して、村の方に読んでいただいたり、あるいは村から出て行かれた息子さんや娘さん達、そうした方たちにも配布できるようにしたいなと思います。あるいは、神恵内村大好きで、この村を応援してるよ、という方たちにも届けられたらいいなと思います。村民の方々から、「私はこんなふうに思ってるよ」というような意見をいただいて、それを載せる場にもしたいなと野望を持っています。そんなわけで、ここにいらっしゃる皆さんの所にも行って、ちょっとインタビューさせて下さいとか、この対話の場についてどんなことを思ってるらっしゃいますか、というのを、訪問してインタビューさせていただいて、記事にさせていただいたりします、ということを予めご了承いただければと思います。

○ファシリテーター

もうちょっとこうしたほうがいいのか、俺の意見もこういうふうには書けよ、というのがあれば、ぜひお寄せいただければ、NUMOの事務所に言っただけでもいいですし、言っただけであれば、僕らの所につないで紙面に反映するような形を取りたいと思っております。皆さん、よろしいでしょうか？ そんなことされたら迷惑だ、という方はいらっしゃいませんか？大丈夫ですか？ どうもありがとうございます。では、そのように進めさせていただきます。よろしく願いいたします。

○NUMO

続きまして、資料4に行きたいと思っております。資料4、幌延の深地層研究センターの視察等につきまして、ということで、幌延の視察については、これまでの対話の場で委員の皆さまから「視察を希望する」というご意見がありましたので、先ほどの資料1、2でご説明した対話の場のテーマの委員の皆さんへのアンケートの中に、幌延の視察についても委員の皆さまにご意向を確認させていただいております。

その中で、11月の25から26の日程でご都合のついた委員の皆さまには、幌延を視察していただきたいと考えております。また、今回はご都合により視察に参加できない委員の皆さまにつきましても、今後ご都合を伺いながら実施していきたいと考えておりますので、よろしく願いします。それと、2のその他に記載しておりますけれども、これも前回、対話の場の中でご意見いただいておりますけれども、村内での小規模な対話活動につきましても、例えば、町内会の単位であるとか、各種団体の単位で、新型コロナウイルスの感染拡大状況も踏まえながら、調整のできたところから随時実施させていただければと考えております。資料4の説明は以上です。

○ファシリテーター

どうもありがとうございます。資料4、幌延の深地層研究センターへの視察。これ、よろしいでしょうか？ 異議ないでしょうか？ こういうかたちで進めていかせていただきたいと思っております。参加できない方お一人かな？

○NUMO

何人が参加できない方いらっしゃいます。

○ファシリテーター

いらっしゃいますので、その方々についてもフォローアップを考えたいというお話でしたね。この25、26ですけれども、僕と佐野さんも行けるんだね。あと誰来るんだっけ？古家が来るんだっけ？この辺のメンバーもできればご一緒しますので、一緒に泊まって、一緒に現地見て、次の日の朝一番に小さな振り返りを皆さんと一緒に、こんなかしこまった感じにならないと思うんですけど、「どうだった？」みたいな会を持ちたいなと思って、その結果を次の対話の場で、こんなこと見てきて、こんな話が出ましたよ、という報告ができればいいんじゃないかなと思っております。よろしく願いいたします。

ということで、運営委員会の議事内容については、事務局で用意したのはこれで全部。運営委員の方、これで漏れとか落ちとかないですか？大丈夫ですか？

では、この内容で運営委員会で検討させていただきました。今後とも、前回の運営委員会でお話を申し上げましたが、実は対話の場のプログラムを作る時に、具体的に拾いきれてないご意見とかお気持ちがあります。対話の場はこうあるべきじゃないとか、対話の場にあってはこんな課題があるんじゃないとか、場そのものの作り付け。例えば、どんな人が参加すべきだとかといったようなことについては、プログラムのタイトルとして挙げてくるということにはできないので、私たちが場を作っていく場面で気をつけなければならないこと、心しなきゃならないことがたくさんあるので、これから先も何度も何度も振り返りながら進んでいきたいなと思っております。その話を前回の運営委員会でもさせていただいたんです。ということで、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

先に進めましょう。今日の話題は、前にもちらっとお話ししましたが、今日のテーマは、「地層処分の概要」と「文献調査」、ここまで行けるかどうか分からないですけれども、ということについて、今日皆さん方でちょっと話を聞きながら解決できるものは解決していきたいと思っております。これから先、この後のNUMOから説明があるんですけども、お手元に付箋があります。疑問だとか、不安だとか、不審だとか、それ大丈夫かよ、という意見があれば、説明している真っ最中でも書き始めていいので、今僕の話している最中でも構わないので、書き始めていいので、前回みたいに付箋を書いていただく場面がありますので、思いついたら今からでも書いてください。今日、このテーマを持ってきた理由というのが何かあって、実はすごく票が多くて、アンケートを取った時も、これを扱ってくれという話がとて多くて、それでテーマにしています。どんな意見があったのかなって、今ちょっとリストで示します。これはお手元にプリントアウトして用意しました。「仕組みを一から丁寧に分かるように説明してほしい」、あそこの付箋ですよ、この文字ね。この文字を拾ってきています。「仕組みを丁寧に説明してほしい」だとか、「どうして今まで先送りしてきたのか」というのは、全部読むと大変なので、たくさん意見をいただいております。こういうたくさんの疑問があったので、今日このテーマについて扱うことになりました。どんなことを自分は疑問に思ってたかな、他の人は思っていたのかなと、ちょっと見ながら後で

振り返っていただければと思います。今日の最初の「地層処分の概要」。僕が勝手にポイントを決めんな、と言われそうなんですけども、(地層処分の) 概要のポイントというのは、これからの説明の聞きどころというやつです。僕が思うに、一体全体何を処分するの地層処分って。何を埋めるの。それと、どうして地下じゃなきゃならないの。他にもいろんな方法があるんじゃないのとか、地下を選んだ理由はなに、とか、それを一体全体これから先この事業をどんなふうに進めていくつもりなの、みたいなのが、今日の聞きどころかなと思います。明らかにしなければ、時間がありますので、テーブルで質問をしていただければと思います。ということで、よろしく願いいたします。

(4) 地層処分事業の概要について

○NUMO

皆さん、こんばんは。NUMOの伊藤と申します。今、大浦さんからお話がありました地層処分っていったいどんなことなのかとか、あるいは、なぜ地下に埋めるのか、それから、どんな手順でやるのかというようなことについて、皆さんのお手元に今画面出ている資料がございますので、これを使ってご説明をしたいと思います。

まず1枚めくっていただきまして、私どもNUMOと言っているのですが、正式の名前は原子力発電環境整備機構という、ちょっと長い名前なんですけども、2000年にできました。2000年に法律ができて、この原子力発電所から出てきた高レベルの放射性廃棄物を埋める実施主体ということで、私どもができたわけなんです。今、寿都と神恵内で文献調査は始まっておりますけども、皆様方とこの期間に対話活動、今日もそうなんですけども、こういう活動しながら、この問題について皆さんによく分かっていただくということが非常に大事だと思っております。それから一番下にありますように、皆様方のご理解なくして、放射性物質を持ち込むということは、調査をしっかりとやるということも合わせてなんですけども、ありませんので、そういう前提の上で今活動しているということでございます。

今、私が申し上げた原子力発電のゴミなんですけども、隣に泊村がございますけども、そこに原子力発電所があります。運転すると、使った燃料をそのまま捨てちゃうということは、日本は非常に資源が少ないものですから、リサイクルをして、もう一度使えるものをやろうということで、この輪がありますけども、青森県の六ヶ所村という所に、使い終わった燃料を持って行って、もう一度リサイクルをする工場があります。再処理工場と言っておりますけども、ここで使える燃料ウランとかプルトニウムを取り出して、95%は再利用できるんですけども、残り5%がどうしてもゴミとして残ってしまいます。これをこの再処理工場の中で、ガラスと混ぜ合わせまして、その絵にありますように、ガラス固化体というものにしていきます。要は、使い終わった燃料を再処理する中で溶かすんですけども、ガラスと一緒に溶かしたものを混ぜ合わせたものを、絵にありますように乾電池状の高さは130cmぐらい、私のちょうど顎ぐらいの高さでしょうか。幅が直径40cmぐらい、重さ500kgというガラス固化体というものを作ります。日本では、これを高レベル放射性廃棄物と言っております。それ以外にも、ちょっと小さい字でありますけども、再処理工場を運転しますと、このガラス固化体よりは放射線が低いんですけども、放射性物質で半減期と

言っておりますけども、その放射能の威力が減るまでの時間が長い物質がいくつか出てきます。これも地層処分をするということにしてございます。これは、数としてはガラス固化体に比べますと、最終処分場に入れる面積としては少ないです。ガラス固化体が非常に放射線が高いということで、この話をまず軸にお話をしたいと思います。

このガラス固化体ですけども、これは大事なことなんです、福島第一の事故があって、なんか爆発したりとかするんじゃないかという心配をされている方が多いと思います。先ほど言いましたように、使い終わった燃料の中から再利用するというので、ウランとかプルトニウムを取り出しています。それ以外の物質については、よく臨界と言っているのですが、原子力発電所の中では核分裂が連鎖反応を起こして、その時、大きなエネルギーが出るんですけど、その熱を利用して発電をしているわけなんですけども、そういった物質は残っておりませんので再利用できない、先ほど 5%と言いましたけども、この再利用できない部分をガラス固化体にしてあります。臨界が起きませんので、爆発をしたりとか、核分裂がもう一度起きるといようなことはありません。ここが大事なところだと思っております。よく原子爆弾みたいになるんじゃないか、と心配されている方がいますが、これはウランとかプルトニウムを相当濃縮しないとできないものです。全く違うものだと考えていただいてもいいと思います。いずれにしても、このガラス固化体、高レベル放射性廃棄物なんですけども、次のページをご覧ください。

これが今どこにあるのかということなんです、青森県の六ヶ所村に再処理工場があるということをお知らせしましたが、その中に貯蔵管理センターというものがござります。左側に絵がござりますけども、こんな形で収納してござりまして、オレンジの丸い所の下の断面図が右側に出ていますけども、ガラス固化体を九段重ねにして、2m のコンクリートで遮へいをしてあります。2m のコンクリートがあれば、左の絵にありますが、人間がいても被ばくをすることはほとんどないと考えていただいてもいいと思います。ここに今 2,500 本のガラス固化体があります。実は、先ほど言いました青森県六ヶ所村の再処理工場はまだ本格稼働してないのですが、なぜ 2,500 本あるかと言いますと、日本ではなくてイギリスとかフランスのほうに、さっき言いました使用済みの燃料を持って行って再処理をしてもらって戻ってきたもの、これをガラス固化体として、ほとんどそのものだと思っております。この六ヶ所村に保管をしております。ただ、先ほど言いました使い終わった燃料でまだ再処理してないものは、原子力発電所の中にずっと残っているものがござります。泊の発電所にもあります。他の原子力発電所にも、プールとかそういう所に保管しているものがござりまして、そういったものを仮に再処理をしてガラス固化体にしたとすれば、日本中に 26,000 本ぐらいのガラス固化体があると考えていただいてもいいと思います。100 万 kW 級の原子力発電所を 1 年間運転しますと、大体 20 本から 30 本ぐらい発生します。隣の泊の発電所ですと、1 号機と 2 号機合わせますと、1 号機が 57 万 9 千 kW、2 号機も同じなので、大体このぐらいのガラス固化体が発生すると思っております。

次のページをご覧ください。このガラス固化体は、できた当座は非常に高い放射線を発します。このグラフにありますように、すごく高くて、そこに近寄ると被曝して人間が生死に関わるような状況になるのですが、実は放射線というのは、だんだん時間とともに減ってきます。ここに吹き出しがありますように、50 年経つと最初の 10 分の 1 ぐらいになる。1,000 年経つと 99.9% ぐら

い放射線が減ってきます。その後ゼロになるわけではないんですが、ゆっくりと減っていく、そういう性質を持っております。ですので、1,000年間で99.9%減りますので、その間は放射性物質を外に漏らさないということが、大きな肝になります。それ以降もそうなんですけども、1,000年間は絶対外に漏らさないということが肝になってきます。

次のシートをご覧ください。そのためにどうするかということなんですが、地下深い所に埋めるつもりでおります。数万年ぐらいかかる、先ほどのグラフの中で1万年までしか軸はなかったんですけど、数万年ぐらい経たないと放射線が、最初のウラン鉱石を掘った時ぐらいまで減らないという、そういう性質を持っていますので、数万年間、人間の生活環境に影響がないように、人間が住む環境に影響ないようにしていくということで、300mより深い所に埋めます。それによって「隔離」をしようとしているのですが、放射線の影響を直接受けないようにすると。先ほど、2mのコンクリートで遮へいできるということをお話しましたが、300mより深い所に埋めることによって、そういう影響をなくすと。それから「閉じ込める」と書いてありますが、地下深い所は、この後申し上げますけども、人間が管理しなくても安全が担保できるという、そういう性格を持っているところがございます。そういう場所を狙って、納めることによって、人間が管理をしなくてもいいというような状況に持っていくという性質がございますので、地下の深い所に埋めていくと。300m以上深い所ということになっています。ちなみに、先ほど言いましたけども、先ほど六ヶ所村に貯蔵管理センターがあるという話をしましたが、30年から50年ぐらいは、造った当座は280度の熱がありますが、50年ぐらい経てば100度以下になります。それまで熱を冷ますということで、あそこでその間は管理をするということになります。

地下に埋めるという話をしましたが、実は今までそれ以外の方法もいろいろ考えられてきました。海とか南極の氷の下に埋めるという話もあったんですが、この2つについては、国際条約で禁止をされました。宇宙に持っていくという話もあったが、万が一、ロケット発射が失敗したら大変なことになります。それから右端にありますように、地上で管理し続ける、

(配信中断のため音声なし)

○NUMO

あとは、地下水が日本は豊富なので気にしなきゃいけないのは、地下水に放射性物質が溶け出して地上に出てくるんじゃないかと心配される方も多いと思うのですが、実は地下の深い所は水の流れが非常に遅くて、年間数mmぐらいになります。そういったしっかりした岩盤の所を探していくことによって、物を閉じ込める力という性質を利用できます。こういった利点のある地層処分ですが、先ほど言いましたように、地下深い所のしっかりした岩盤であれば、それ自体が天然バリアになるということなんですけども、それだけではなくて、人工のバリアも築いていこうということになっています。ガラス固化体の話を申し上げましたけど、ガラス自体が非常に溶けにくいものです。全部溶けるには7万年ぐらいかかると言われております。それから、その周りを厚さ20cmほどの鉄製の容器で覆うことにしております。1,000年ということ先ほど申し上げましたが、1,000年経っても、かなり厳し目に見ても、腐食代(しろ)は2~3cmぐらいと考えており

ます。それから、その周りを特殊な粘土で覆うことにしております。これは、ベントナイトと言っているのですが、皆さんの身近なところで言いますと、ペットの砂がございますよね。あれはおしっこをすると砂が固まりますけども、あれと同じ性質を持ったもので覆うことにしています。要は、外から水が入ってきた時に水の浸入をできるだけを防止する、あるいは遅くする、あるいは放射性物質が漏れ出した時も外に出にくい、というような人工のバリアを築いていこうということ考えております。

そうは言うけども、安全の確保はどうやってやるのということなんですが、きちんとした場所を選んでいくということが大事だと思います。いろんなリスクがあります。ここに書かれておりますけども、火山、活断層をはじめ、いろいろなリスクがありますが、そういった場所をきちんと確認をしたうえで、そういった所を外していく。あるいは、影響が多少なりともあるのであれば、それに対応できるような設計をきちんとしていこうということ、それぞれについて、その場所場所で安全性の評価をしたうえで、少しずらした場所に造ったほうがいいんじゃないかとか、設計をもっと、バリアを厚くしたほうがいいんじゃないか、こういうことを繰り返しながら安全性を担保していこうということになります。

地層処分をどこで行うかということなんですが、やはり火山とか活断層のある場所は避けていこうということになっております。これは直接火山の影響を与えたりとか、活断層が直撃したりとか、漏れ出した放射性物質が活断層の所が水みちになって地上に出てくる可能性があるということで、そういった場所を避けていこうということになります。

そういう場所をどうやって選んでいくかということなんですが、調査をしっかりやっていこうということになっております。文献調査は今始まっておりますが、これは基本的にいろいろな所にある文献で、学術論文であるとかそういったデータを集めて、先ほど言いました、火山とか活断層がどんな状況にあるのかというのを調べる調査です。それから概要調査。これはボーリングなどの調査になりますけども、実際に穴を掘ってみて、地下の様子を調べる。そして、精密調査というのは小ぶりの施設を造って、先ほどちょっと話に出ましたけど、幌延のような施設を造って地下の様子を実際に調べていくという、こういう調査を20年かけてやっていくことになります。地下の様子はやっぱりしっかり調べないと、きちんとした評価もできないということで、大事なことは、それぞれの調査が次の段階に行く場合には、市町村長と知事の意見を聞いて、反対があれば先に進まない、という法律の立て付けになっています。

文献調査というのは、後でちょっと申し上げますが、科学的特性マップが2017年に出たんですけど、先ほどちょっと言いました、適性のないようなものは何があるかというのを、全国のデータを取り集めて作ったものが、左側にあります「科学的特性マップ」、これ2017年に出たものです。これを文献調査で、その地域特有のデータをかき集めまして、もしかすると火山の影響が、これオレンジの半円になっているんですけども、少し広がるんじゃないかとか、科学的特性マップのときになかったような活断層が見つかるかもしれないということで、こういったものを落とし込んでいくというのが文献調査の最終的なでき上がりになります。今申し上げた科学的特性マップというのは2017年に、全国の皆さんにこの問題に関心を持っていただくということで作ったものでございます。具体的には、この地域だけ拡大したものが次にありますけども、オレンジ

色の丸いものは火山です。火山の中心から半径 15km の範囲。それから、活断層がちょっと見づらいかもしれないですが、黒松内の起震断層とか尻別川の起震断層というのがありますけど、その長さの 100 分の 1 の幅でとったものでございます。こういった所は比較的適性が低いということから、それ以外の所は適性が高い可能性があるということで、緑色にしております、この神恵内村、ちょっと見づらいと思うのですが、積丹岳から 15km の範囲に火山の影響があるという円がありますが、ちょうど泊村との境目のあたりは緑色になってございます。

どんな施設を造るということで、これはちょっとイメージ図ですが、大体 1~2 平方 km ぐらいの大きさになります。泊の発電所が 1.35 平方 km ですから、大体そのぐらいの大きさだと思っていただければいいと思います。先ほど申し上げた、ベントナイトを作ったりとか、そういう工場的な施設が 3 分の 1 ございますが、ほとんどが掘ってきた土を仮置きする施設、右半分 3 分の 2 ぐらいになります。それから、地下は地上の面積の大体 5~6 倍になります。その坑道が 200~300km ぐらいになる予定ですけども、大きな飛行場、この辺ですと新千歳の飛行場ぐらいの面積になるということで、こういった絵にあるような施設を造ることになると考えております。

海外も基本的には地層処分、地下に埋めていくということでやっております、一番進んでいる所はフィンランドで、もう建設に入っております。スウェーデンも場所が決まって、いま安全評価を受けているということで、次に続くのは、先ほど 3 ステップの調査の中で精密調査段階にあるのがフランスということで、日本とかイギリスが今文献調査の段階にあるということです。この事業は、調査 20 年と言いましたけど、建設が終わって、

(配信中断のため音声なし)

○テーブルファシリテーター

(放射線が) 1,000 年で 99%減ります、というところはポイントでお話されていたかなと思います。ありがとうございます。今のがここです。

その間、埋めて人体に影響がないように、人が管理しなくていいようにというので地下に埋めるという話がここに出てきて、地下のメリット、皆さんは結構「地下は揺れるんじゃない？」とと思っているけど、地上より揺れにくいよねとか、酸素少ないですよ、あと地下深くは水の流れが遅いですよ、という話がありました。

いま地層処分になってるよ、というお話ですね。

あと人工バリアというのが、ガラス固化体自体溶けにくいから人工バリアだけど、あと粘土質に囲まれるので、そういうのもバリアします、という話がこの辺、早かったんですね。その後、安全確保の話があって、では「どうやって安全確保してくんですか？」というところで、だから場所選びがまず大事ですよって。その後、設計ですね。場所選びどうすんの？って。火山と活断層はダメですよって。その後、調査しますって。調査って何年？20年ですよって。文献調査して、概要調査して、精密調査しますが大体 20 年で、このステップは知事の OK とかもらうんですよって話がありました。

科学的特性マップの話があって、泊村の間は緑ということだけ聞き取れました。どのような施

設建てるんですか？上は1~2平方km、地下は5倍だよ、というのをなんとかギリギリメモってですね、外国の話はメモリきれず、調査20年だけど埋めるまでは100年で、日本では対話事業とかやっています、というのが、いいですか？ワーツと言っちゃいましたけど、こんな感じの話だったかなと思います。

○ファシリテーター

日本では何やってるって？

○テーブルファシリテーター

最後のスライド、進めてますよって。

○ファシリテーター

日本でいろんなかたちで対話を続けているということについて報告があったんですよ。ありがとうございます。

というような感じでした。古家さんの「ファシグラ」と言ってますけども速記です。こんな感じでマンガ書きながらよくとってくれました。

間違いありました？

○NUMO

本当に分かりづらい説明を、分かりやすく絵解きして頂いてありがとうございます。

ちょっと補足すると、酸素少ないというのは、何でそれがあるのかと言うと、鉄製の容器で覆うんですけど、それが錆びにくいんですね。地下深い所だと。その説明しないで端折って説明しましたけど。ですので、水との接触をブロックするために鉄製の容器とか粘土で包むんですけど、一番のリスクは、放射性物質が水に溶けだして地上に出てくるというのが一番のリスクなんです。それをなくすために、こういう人工のバリアとか活断層なんかの影響のないような場所に埋めようと。こういうことがポイントになります。

○ファシリテーター

ありがとうございます。佐野さん、ずっと話を聞いてて、なんかこんなところどうなんだろうとかと思ったことありますか？

○ファシリテーター

分からないことがいっぱいあって、ちょっと聞いてみたい。いっぱいというか、んっ？と思ったんですけど、例えば一つなんですけど、文献調査、概要調査というふうになる、文献調査をやった後、知事の人たちとか市町村の市長さん達のOKが出なかつたら次に行かない、という話があったんですけど、そもそも、例えば文献調査しました。でもこれはNUMOさんがやりました。例えば、私たち病気になった時に、このお医者さんに行って検査してもらったけど、本当にこの

病気なんだろうかとかって思う時に、別のお医者さん行ったりするという、セカンドオピニオンとかやったりしますが、NUMOさんが文献調査をやったというのを、他の人が見ても、「そうこれは安全だね」とか「これは危険だね」とか、誰か第三者みたいなNUMOさんと利益関係がない人に尋ねたりするみたいなことというのはあったりするのでしょうか？

○NUMO

第三者評価だと思いますが、これは考えてはおります。あと、ちょっと申し上げなかったのですが、これは原子力発電所もそうなのですが、安全に関わることでですから、原子力規制委員会というところで、最後にこれが本当に安全なのかどうかというのを審査していただくステップがあります。これがないとOKにはならないということです。

○ファシリテーター

なるほど。ではNUMOさんと全く別の団体が「これは安全ですよ」ということを、なんていうか承認するかどうか、それも一つステップの間に入ってくるということなんですね？

○NUMO

そうですね。審査は、これは国が定めたものですから、それについてきちんとやって。ただ、我々の評価について、それがいいのかどうかということは、第三者評価、例えば学会であるとか、あるいは国の委員会もあるかもしれないんですけど、そういうところで見えていただくというステップは、きちんと取っていきたいと思っています。

○ファシリテーター

なるほど。ありがとうございました。

○ファシリテーター

ありがとうございました。いろんな疑問があるかと思いますが。皆さん方の疑問を、休憩の後にテーブルワークで出していただければと思います。

ただ前回も同じですけども、現在の状況を確認します。後ろにマスコミの方が入っていて、中継が繋がっていて、インターネットで皆さんが見ているという状況です。この状況の中で、是非このことを質問したいという方がおいでであればお受けいたしますが、いかがですか？

〇〇さん、質問、今みんなの前でします？後でテーブルでやります？一つお願いします。

○委員

今NUMOのほうからの説明がありましたけれど、今の説明聞くと、安全だということだけが強調されてる。それだったら、何もこういう会議なんか開く必要がないんじゃないですか。やっぱり危険だということからね、最悪の状態は何なのかというところから論議をしていかないと、安全だ安全だっていう話ばかりでしょう。これでは前に進めることできませんよ。それと、例

えば、再処理の問題について、5%だけが残ってもうほとんどもう核種はないんだみたいな話になってるけれど、それでは使用済み核燃料の再処理は何回するんですか。最後の使用済み核燃料は、そのまま残っていくんですよ。しかも、いろんな核種が更に再生産されるわけですよ。そういう中でね、5%より残ってないから安全だ、みたいな話になってる。これは違うと思いますよ。

○ファシリテーター

○○さん、たくさん質問があって、たくさん思いがあると思うんですけど、申し訳ありません、時間がそんなにないので、残りの質問は後でテーブルでしていただこうと思います。ただ、今、出てきた質問が二つあります。最悪の状況を想定してるのかということが一つ。まず、このことについて答えてもらいましょうか。

○NUMO

私ども、まず調査をしっかりやるということを申し上げましたけど、例えば、地下に隠れた活断層があったり、あるいは火山の影響があるとかそういう状況で、どうしてもその立地や設計の対応等をして、立地にふさわしくないということになった場合には、立地はできないと思っております。それから、最悪のケースの評価については、いろいろなリスクがあると思っておりますけど、いろいろなリスクについて、かなり厳しめの評価をいくつか重ねた上で、じゃあ地上にいる人間にどれだけの放射線の影響があるのかどうかということは、きちんと評価をしてくと。ですから、最悪の状態というのは、いろんなケースを組み合わせた上で、例えば、バリアが1,000年持つと言っていたけど、それがもたなくなったとか、そういったいろいろなリスクケースを重ね合わせたようなことを組み合わせて、安全性を評価すると。ですから、評価した結果どうやっても安全が担保できないという場所は、やめるというふうに考えてます。ですから、全部安全だということは申し上げておりません。

○ファシリテーター

ありがとうございます。さまざまなリスクを重ね合わせて評価を行うということと、結果として、その評価でリスクが大きすぎる、この地域はリスクが大きすぎるという場合には、その場所で、できないかもしれないということをおっしゃったのかなと思います。

○NUMO

はい、おっしゃる通りです。

○ファシリテーター

それと、もう一つ質問がありました。リサイクルの話で、たぶん皆さん分からないと思ったので、ちょっと補足しますと、「核燃料はリサイクルしますよ」という話が説明にありました。リサイクルをして、出来上がった核燃料もう一度使います。六ヶ所で作った核燃料もう一度使います。その使った後の核燃料はどうするのか、という話なんだと思うんですよ。

○NUMO

今は、青森県の六ヶ所村の再処理工場でやるものは、一回のリサイクルということを前提にしております。ただ、一回使い終わったものを再処理してもう一度できた燃料を使った上で、次のステップに行って、それをもう一度再処理するのかどうかということについては、今研究を重ねたりして、実施に向けて検討しているということです。ですから、現実にそういう施設があるのかと言うと、今現在はございません。

○ファシリテーター

はい、分かりました。お手元の資料にあると思いますけども、一回リサイクルして出来上がった燃料を再利用した後、その後、さらに残った核のゴミは、これはどうするのかってことですが、現在まだ研究中、決まっていないということでもよろしいですか。というようなお答えでした。他にもたくさん質問があるでしょうし、多分もうちょっとちゃんと説明してほしいと思っている方もいらっしゃると思いますが、それについてはこの後テーブルワークの中で皆さん方とお話させていただきたいと思います。

では、ここで一回休憩に入りまして、10分間休みましょう。(午後7時)43分ぐらいで再開します。10分休憩します。その間に質問がある方は書いていただきます。

ここでインターネットの中継が終わって、一旦、報道の方に出させていただきます。では、お休みください。どうもありがとうございます。

(5) グループワーク (映像のみ公開)

(6) グループワークにおける状況説明

○ファシリテーター

これから各ファシリテーターに、テーブルでどんな質問が出て、どんな答えがありましたか、ということについて、全部はご紹介できないのですが、一部を抜粋します。

質問と回答は、多分丸めて話をすると思うので、テーブルの中で「違ったんじゃないね？」みたいな話があれば、それはそれでお伺いしますので、ちゃんと後で意見を拾います。C チームお願いします。

○テーブルファシリテーター

3つ質問が出て、少なかったので、簡単に話します。

「300m以上深い場所に埋めますけど、その後、本当に管理しなくていいんですか？」という質問に対しては、「最初から全く手を放すのではなくて、少しボーリングとかでモニタリングをする。何回か調査をする。本当に大丈夫かな、という調査をします。いずれ、どこかのタイミングで自然に任せる時が来る」という話が簡単に言うことができました。

「ガラス固化体って日本だけのものなんですか？」というお話があったんですけど、「他の国とちょっとは違いはあるんだけど、基本的な地層処分の仕組みは同じ」という話であったかなと思

います。

「他の学者さんで神恵内周辺が適地じゃないと言ってるのに、なんでそれを認めないの？」というご質問もあったんですけども、いくつかあった中で一番推していたのは、「学者さんたちが言ってるのは地表の部分の地層のことを言っている。でも本当に調べたいのは地下なので、地下の所を調べてからまた話したい」というような話があった。

○ファシリテーター

今ので大丈夫ですか？ 言ってたこと違うぞ、ということはないですか？大丈夫ですか？

ちょっと分からなかったのは、基本的な地層処分の方法は海外と日本と同じ。ちょっと丸めすぎて分かんないんだけど、どういうことですか？

○NUMO

すいません、私の説明がたつなくて。確かに、日本はガラス固化体を埋めますけど、国によっては、使用済み燃料をそのまま地下に埋める国もあって、確かに処分するものは多少違うんですけど、どこの国でも金属の容器で閉じ込めて、その外側を粘土で巻いて、それを地下深い何百 m という岩盤の中に処分するという、そこは共通して同じです、というご説明をしました。

○ファシリテーター

ありがとうございました。皆様、納得していただきました？大丈夫ですか？それではCチーム、どうもありがとうございました。では次Aチームお願いします。

○テーブルファシリテーター

Aチームは、大きく分けて「文献調査のことにに関して」、それから「技術的なことにに関して」と分かれています。

まず、文献調査のこと。困っているのが、お一人のひとつの意見というか質問です。文献調査のことで、概要調査にいくまでに道の条例との関係ですね。

「道と村の意見が食い違ったらどうするのか？」ということに関してお答えいただいたのは、「核の持ち込みに関してはNGなんですけど、調査を否定しているわけではない。ただ最終的に調整はもちろんしますけども、意見は尊重しなければなりません」というお話ありました。

「文献調査はどのぐらいで終わるのか？」ということで、「一応目安は2年なんですけども、これは延びるかもしれない」というお話もいただきました。

あと、技術的なところなんですけども、まず地質の話。表面がどうか、下の部分はどうかとか、実際掘ってみないと分からない部分とかもあるとかというお話にお答えをいただきました。

あとは核分裂についてとか。これもすごく詳しい説明をしていただいたんですが、さすが住民の方、『とまりん館』行こうか」という話にもなりました。そこに勉強に行こうかと。

あとは、豚骨に（放射性物質を吸着する成分が）入っているとか、人工バリアとか、技術的な

ことでカバーのできることというのもあるよ、ということで、すみません、ちょっと端折りすぎた部分はありますけど、こんな感じでどうでしょう？

○ファシリテーター

大丈夫ですか？ テーブルから異論はないですか？A チーム、どうもありがとうございました。次はD チームかな。

○テーブルファシリテーター

質問が出たのが、「六ヶ所村に 2,500 本。あと何本入るの？」、「1,000 年で 99%と言ってるけども、一体どうやって調べたの？」、「フィンランド、スウェーデンは岩盤が固いよね、日本は違うんじゃない？」、「この地区で地上施設は造れるの？」という話が出て、地上施設の話がグループの中で結構盛り上がったので、ここの説明をします。

実際に必要なのは、1~2 平方 km ぐらいが必要と言われてるんですけど、マップを見ると、神恵内はほんのちょっとしか青い(グリーンの)所がなくて、「実際そこってどのくらいの大きさ？」という話をしたところ、「そのくらいの大きさでも 1~2 平方 km ぐらいはある」という話で、「ただそこって平らな所ないよね？」という話をしたら、「そこは削って平らにすれば施設は置けるので大丈夫です」みたいな話が出ていて、「えっ！山削るの？1~2 平方 km も山削ってやるの？」みたいな話で、結構その話は皆さん盛り上がって話をしていたのと、あと「地上じゃなくて海の中にもできるの？」という質問には、「地下施設は海の中に造っても大丈夫」ということで、神恵内でも造る場所はある。ただ、「山を削ったりとか、崖地に造るので十分注意が必要」という話が出ておりました。

あとは、文献調査の話も質問が出たんですけども、残念ながら時間がないので、これは未回答として置いておきますので、次回よろしく願いいたします。

○ファシリテーター

ありがとうございました。文献調査（の話は）大事。すみません、今日、文献調査の話まで進められませんでした。テーブルの中で、その質問とその答えは辻褃あってないんじゃない、というご異論はありませんか？大丈夫ですか？どうもありがとうございました。B チームお願いします。

○テーブルファシリテーター

概要説明をしてもらっている横から、どんどん質問の付箋を書いていた状態でした。質疑応答の中でも、質問に対して答えるという、1 と 1 みたいなそういう形ではなく、答えに対してまた質問を重ねてという形で、質問と回答が広がっていくような、そんなやり取りがグループの中でされていたかなと思います。

最後、「その話の中のどこに重きを置いて私は発表しましょう？」という話をしたんですが、まず、「どんな質問が出たのかという紹介に徹していいのではないか」という話で、どんな質問が出

たのかというところをきちんと紹介したいなと思っています。

リスクに関しては、すごくいろんな質問だったり懸念だったりというのがあるとは思うんですが、基本的に「致死量となる放射線量ってどのぐらいなのか？」という、その基礎知識の部分で質問がありました。「どんな単位で、その数字は何なの？」、「それが何年後にどのぐらいに減っていくの？」というところを知識としてきちんと整理させていただきました。

「地層処分事業の説明を全国小中学校の授業で必修になればいいのに」ということに関しては、「本当、日本の国の話でもあるので、きちんとそういう教育がなされればいいんだけどね。現在そういう実現には至っていない」という話も出ていました。

「地層処分の仕組みについては理解できました。問題は天然バリアとして機能する丈夫な岩盤が神恵内にありそうですか？」と質問に対して、岩盤についての説明、それから調査方法に関する説明などをいただきました。

「使用済み放射性廃棄物の処分に関わって国際協調がなされているのか？」というところで、「もし日本の中でどこも手挙げしないときはどうするの？」や、「働きかけをするんだろうと思うけど、それでもなかったらどうなるんだろう？」という、そんな質問も出ていました。

「再処理工場の稼働がいつになるのか？」だったり、六ヶ所村の再処理工場の同じ稼働についての質問、これからの予定などについても質問が中心的に出ていました。Bからは以上です。

○ファシリテーター

よろしいでしょうか、皆さん。ありがとうございました。それではEチームをお願いします。

○テーブルファシリテーター

とても盛り上がりました。まず出てきた質問とご意見をご紹介します。

「学者さんも含めて、いろんな人がいろんな説明をしてるけれどもよく分からない。日本学術会議の提言に対する考えはどんなものか？」

これは質問というよりはどちらかというご意見なんですけども、「ガラス固化体が爆発しない。なんとなくのイメージで思い込んではいけないなと思いました」。「考えられる地層処分のデメリットとかりリスクを教えてください。メリットは一応分かりました」。

国際条約で禁止する、例えば、南極に捨てるのか、宇宙に飛ばすとかということだと思んですけど、「自国処理の原則は、原発を保有する国で決めてるのですか？」という質問。

「活断層を避けると言っているけど、本当にそれ全部分かるの？」。厳しい質問が並んでますけれども、「NUMO が出来て 20 年間、20 年何をしてきたの？」「再処理工場に 20 数回延長ありましたけど、日本の原子力技術は信用できるの？」という質問ご意見が出てきました。

この中でいくつかご紹介したいんですけども、まず「日本学術会議の提言に対する考えを教えてください」というのがかなり白熱しました。「日本学術会議の提言」の中の特にどういうところかという、「今の科学では安定な地層が分からないから地上でしばらく保管しなさい、という提言についてどう思うか？」というご意見でした。NUMO 的には、「日本学術会議は確かに当面地上管理と言っているけども、最終処分の準備、コンセンサスを得る時間をしてから最終処分をす

べきだ、ということを行っているので、NUMOとしては、学術会議の考えと今やってること、それは変わらないです。文献調査の結果を見て先に進みます」という、NUMO的にはこうですよという回答でした。そこでさらに質問者から追加のご意見が出てきまして、「学術会議は進め方、事業の進め方も今のやり方ではダメです。国主導でやりなさいと言ってますよね。違う組織作ってコンセンサスを得るように努めるべきではないか。このやり方だと先に進まないんじゃないんですか。だったらこの2年間は何だったのか。今のやり方では町が分断されてしまう。地方を混乱させてしまう。こういうやり方はダメだろう」、NUMO的には厳しいご意見が出てきました。

そして、「NUMOが出来て20年間、何をしてきたの?」という質問なんですけれども、「20年間、公募と申入れ、2つのやり方でやっています。最初は公募があると想定をして、それを待っていました。地元の人意思表示が必要だと考えていました。けれども、途中で方針を転換した」、ここで質問者からの突っ込みとかご意見なんですけれども、「でも福島事故とかも起きて、さらに手を挙げにくくなったよね。ここで手を挙げてしまうと、地元が全国から叩かれる。まちの人たちの負担がすごく大きい」と、NUMO的には厳しいご意見をいただきました。NUMOのコメントとしては、「地元の方たちがやる気になっていただかないと、もたない事業です。しっかり地層を調べてから適否を判断します」というお答えでした。

「そもそも活断層を避けるのはすべて分かるの?」、NUMO的には「地震が起きる断層を調べれば分かります」というお話でした。「泊原発でもすごく揉めてるよね」という話しとかもいろいろ出てきました。

そして、「再処理工場、20何回延長だけど、日本の原子力技術は信用できるの?」という、これもいろいろ議論があったんですけれども、「原子力の技術は試行錯誤ができない。普通の技術は試行錯誤をしながら改良していくんだけど、ここは失敗をするとそれで、失敗だ、と言われてしまうから難しい」という、回答者の個人的な意見ではあるんですけれども、そういう悩みも出てきました。以上です。

○ファシリテーター

テーブルの中でどうでしょう、この答えと質問で大丈夫ですか? 言っていることと辻褄が合わないということはないですか? どうもありがとうございました。

皆さん方、前回もそうでしたけど、今日もいつまでも止まらない感じでした。文献調査のところが今日、ちょっと時間が取れませんでした。技術の方が来てくださってたんですけども、ちょっと時間を取れませんでした。質問もいただいていますので、これは次回に申し送って、次回にやりたいと思います。地層処分事業の概要についてはこれで終わっていいですか? 1回終わらせていいですか?大丈夫ですか?ではこれで一回終わらせます。

佐野さん、どうでしたでしょうか、話しを聞いていて。何か感じたことがあれば一言お願いします。

○ファシリテーター

すごいたくさん皆さんから質問が出てきたんだというのが、とりあえずまずその質問の多さ

に、なんかいいなと思ったのと、あと、NUMOの方々が必死に答えるくらい皆さんの質問がすごく鋭くて、それを見ていてとっても良かったなと思います。どうもお疲れ様でした。

○ファシリテーター

どうもありがとうございました。たくさん出てきた質問、消化しきれなかったものもあるんじゃないかと思います。次回以降も、またテーブルに入って、皆さん方とじっくり時間をとってお話をさせていただきたいと思います。

今回の公開方法は、最初のところと最後のところだけを公開していくという方法を取ってたんですけども、今回、もうちょっと公開の方法を上げたほうがいいとか、今のままでいいとか、今ご意見ありますか？

○ファシリテーター

マスコミに対してということですよ？マスコミに対して、今まで最初の部分と最後の部分だけでも、もう少しマスコミにオープンしてもいいんじゃないか。あるいは現状維持でいいんじゃないか、というところは皆さんいかがでしょう？

○委員

全面公開。

○ファシリテーター

全面公開ね。

○ファシリテーター

全面公開という意見もありますね。

○ファシリテーター

〇〇さん、ずっとそうやって言ってくださっています。最初から「全面公開すべきだ」という意見もありました。運営委員会とか通じながら、先々どんなことをやって行くかということと関わってくると思いますので、公開の方法もまた相談しながら、変えるのか変えないのか、このままでいいのか、ということも含めながら相談させていただければなと思います。

○ファシリテーター

あと、たぶん次回が、

○NUMO

幌延は特に対話の場というわけではないので。

○ファシリテーター

次回の予定とかというのは？

○NUMO

今回は年内にもう1回やりたいと考えていますので、また日程は調整させてください。今回は、「文献調査（の進捗状況）」と「地層処分のリスクと安全（対策）」ですね。

○ファシリテーター

両方やるのは、すごい重いな。「(地層処分の) リスク (と安全対策)」だけで終わっちゃうね。リスク一回で終わるんだらうかって思ってますけども、「文献調査」と「リスク」をやります。「文献調査」はさらっといって、「リスク」を一生懸命やりましょうかね。

という感じでいこうと思いますので、また次もよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございます。お気をつけてお帰りください。

○NUMO

では本日の会は以上となります。夜も遅いですので、皆さんお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。